

# さやいんげんの品種選定と栽培のポイント

雪印種苗(株) 千葉研究農場

近江 公

## 1 はじめに

さやいんげんは温度管理さえ注意すれば比較的簡単に栽培できる手軽な作物の一つですが、収穫から選別、箱詰め作業に多大な労力を要するため、栽培面積および収穫量は年々減少傾向にあります(表1)。

一方、市場においては比較的単価は高値で安定しており、まだまだ出荷量が求められる数少ない野菜の一つとなっていますが、国内産の入荷量の減少にともない、数量確保のため、特に関西市場を中心にオマーン、メキシコ等の海外からの青果物輸入が年々増加しているのが実態です。

各いんげん産地においては高齢化もますます進み、生産量確保に苦慮しているところですが、高収益性の作物であるいんげんについて、今一度作付け拡大にむけた取り組みに期待したいところです。ここでは、矮性、丸莢品種を中心に、いんげんの高収益確保のための品種選定、並びにその栽培のポイントについてご紹介いたします。

表1 さやいんげんの作付および収穫、出荷量の年次推移

	作付面積		収穫量		出荷量	
	(ha)	(同対比*)	(t)	(同対比*)	(t)	(同対比*)
平成元年	11,900	100	95,300	100	60,200	100
2年	11,800	99	90,300	95	56,200	93
3年	11,300	95	82,400	86	50,700	84
4年	10,900	92	83,600	88	51,400	85
5年	10,500	88	74,800	78	46,600	77
6年	10,200	86	75,100	79	45,900	76
7年	9,870	83	75,200	79	46,500	77
8年	9,740	82	75,500	79	47,100	78
9年	9,350	79	71,400	75	44,100	73
10年	9,140	77	66,100	69	40,500	67

\*：各対比は平成元年を100とした時の数値

(資料：農林水産省野菜生産出荷統計より)

## 2 当社品種の上手な使い分け

当社では古くからいんげんの品種改良に取り組み、特に関西市場を中心に人気の高い丸莢系統ではご好評をいただいております。当初比較的大莢で太りの早い、一莢重の重い多収品種が主流であった中、太りが遅く比較的スリムで品質の劣化の遅い系統を選抜し、収量重視から品質を加味した品種改良を重点的に進め、現在『スノークロップネリナ』および『ベストクロップキセラ』等を中心に市場での高い評価を得ております。

さやいんげんの場合、関東と関西での市場の嗜好性が異なっており、鹿児島、沖縄を除いた各主要産地においては、主な出荷先をどちらかに絞って生産しているケース(表2)がほとんどで、品種についても市場の好みに沿った選定が重要となります。

当社育成品種については、丸莢嗜好の関西市場向け品種が中心となっていますが、それぞれの産地でも栽培環境に適した、また、出荷先での嗜好性等を加味した品種の使い分けが必要となります。利用、作型別適品種の一覧表(表3)どおり、それぞれの品種特性を生かした栽培が大変重要となります。

## 3 各品種の特性概要

### 1) スノークロップネリナ

スノークロップの市場商品名で古くから関西市場で高い評価を得ている品種で、このようなスリムなさやの品種群としては、先駆的な品種となっています。熟期は矮性種の中では中生に属し、春播きで播種後65日前後で収穫開始となります。草

表2 さやいんげんの主要産地別作付および生産、出荷状況

	平成元年			4年			7年			10年			主な出荷期間(月)												主な出荷先	
	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量*	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
全国	11,900	95,300	60,200	10,900	83,600	51,400	9,870	75,200	46,500	9,140	66,100	40,500														
千葉	825	9,310	6,830	750	8,370	6,100	751	8,430	6,210	725	7,800	5,650														関東中心
福島	1,190	10,500	7,290	1,040	8,860	6,180	927	8,180	5,700	894	7,170	5,030														〃
鹿児島	591	5,050	4,334	611	4,760	4,190	571	5,390	4,770	509	4,500	3,940														関東、関西
沖縄	401	4,380	3,640	368	3,850	3,180	317	3,360	2,860	348	3,380	2,810														〃、〃
茨城	642	5,270	3,498	584	4,680	3,100	500	4,040	2,510	409	3,270	2,050														関東中心
北海道	264	2,200	1,591	251	2,220	1,660	249	2,370	1,850	281	2,420	1,970														関西中心
熊本	224	2,210	1,823	227	2,140	1,690	189	1,850	1,450	190	1,980	1,570														〃
高知	330	3,490	3,242	166	1,990	1,770	111	1,760	1,560	85	1,370	1,250														〃
長野	482	3,010	1,686	427	2,550	1,460	421	2,030	1,180	421	2,070	1,210														〃
群馬	398	2,660	1,723	371	2,320	1,490	348	2,040	1,210	315	1,820	1,150														関東中心
長崎	323	2,550	2,220	310	2,020	1,690	240	1,620	1,340	208	1,270	1,050														〃

\*：平成10年 1,000 t以上出荷した県

(資料：野菜生産出荷統計及び青果物流通年報より)

表3 当社丸蒔いんげんのラインアップおよび主要特性

(雪印種苗)

品種名	市場商品名	草性	早晩性	適応作型				収穫パターン		主な利用先
				ハウス加温	ハウス無加温	露地(普通)	露地(抑制)	短期収穫	長期収穫	
ネリナ	スノークロップ	矮性	中生	○	○	○	○	○	○	一般、業務用
さやかざり	スノークロップ	矮性	早生	△	△	○	△	◎	×	一般、業務用
キセラ	ベストクロップ	矮性	中生	○	○	○	○	○	◎	一般、業務用
サマーキセラ	ベストクロップ	矮性	中生	×	△	○	◎(特に早播き)	◎	△	一般、業務用
まりや		矮性	早生	×	△	○	○	◎	×	一般、業務用
リンダ		矮性	中早生	×	△	○	○	◎	×	家庭用
SB 2014		半つる性	早生	○	◎	—	—	△	◎	一般、業務用

◎：最適(特に優れる)，○：適する(優れる)，△：やや適する(やや優れる)，×：適さない(劣る)，—：不明

丈は60~70 cm程度で草勢強く、濃緑やや大葉で、主茎太く倒伏にも強い、栽培適性の広い作りやすい品種です。さやは濃緑、スリムで曲がり少なく品質に優れています。ただし、さやがスリムな分、S規格(莢長10~11 cm)では細すぎて重量が乗らずやや低収となるので、M規格(莢長12~13 cm)中心の収穫が適しています。

ネリナについては、比較的草勢が強く作りやすい品種なので、初めていんげんを栽培する方でも比較的取り組みやすく、また、露地栽培を主体とする産地においては比較的倒伏に強いので、ある程度市場の評価を考えながら栽培する場合には最も適した品種です。

スノークロップのさやの形質を兼ね備えているさやかざりは、ネリナより5日程度熟期の早い早生種で、収穫ピークの立ち上がり早いので、比較的短期間で収穫を終える栽培にむいています。ただしネリナよりやや草勢が弱いので、栽培面で

は灌水、肥培管理等でやや注意が必要です。

## 2) ベストクロップキセラ

平成5年に新しいタイプのいんげんとして発表し、現在関西市場では中心的存在として好評を得ている品種です。熟期はネリナとほぼ同じ中生種に属し、草丈はネリナよりやや低く55~60 cm程度で、濃緑、小葉で草姿は比較的小コンパクトにまとまります。さやはネリナよりさらにスリムで、莢長15 cm程度になっても太さは7~8 mm程度しか太らず、今までのいんげんのさやのイメージを大きく変えることになりました。結果的には規格の長さが変わり、キセラの規格では莢長14~15 cm程度がM規格(他品種ではL規格)として、これらの長さのさやが中心に販売されています。また、キセラの特徴として、非常に多くの花芽を持ち、栽培条件さえ整っていれば、比較的長期間にわたって収穫していくことができる品種で、ハウス等での冬~春にかけての長期取りに向けてい

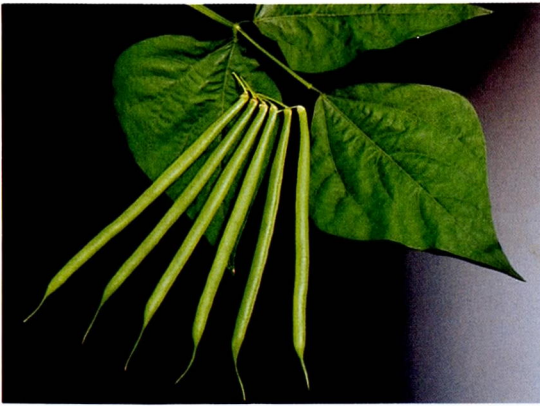


写真1 サマーキセラ

ます。反面、盛夏時の栽培では生育期間が短くなるため、キセラのように後半から草勢ができてくるタイプでは、草勢が確保されない間に収穫が始まり、結果的にくずさや、曲がりさやが増え、低収となることもあり、収穫開始前までに草勢を十分作ることが極めて重要となります。キセラは市場での人気も高く、収穫に際してはやや大きめにして収穫することもでき、さやの品質および収量の両面を兼ね備えた品種として、特に長期間の継続出荷を目指す産地においては、最も利用価値の高い品種です。

ベストクroppとして、夏場の栽培に向く耐暑性を持った品種として、平成8年にサマーキセラを発表しました。いんげん産地においては、収穫労力の関係上、既存の作型での規模拡大はほぼ限界に達しており、さらに生産量の確保、増大を目指すための新規作型への取り組みが必要となり、西南暖地では、初夏播き早秋収穫（9月収穫）の作型が注目されています。時期的には極めて高温下での栽培となり、品種特性以前にいかに防暑対策を徹底できるかが問われますが、品種的にはサマーキセラはキセラより高温下での奇形莢の発生が少なく、耐暑性を兼ね備えた品種です。ただし、草勢はキセラよりさらにコンパクトで、短期収穫向きの品種のため、通常の作型ではキセラの方が適しています。

### 3) その他の品種

全般に早生品種は初期から生育が旺盛で、収穫開始からわずか数日間で急速に収穫ピークを迎え、その後短期間で収穫が終了してしまうのが一般的

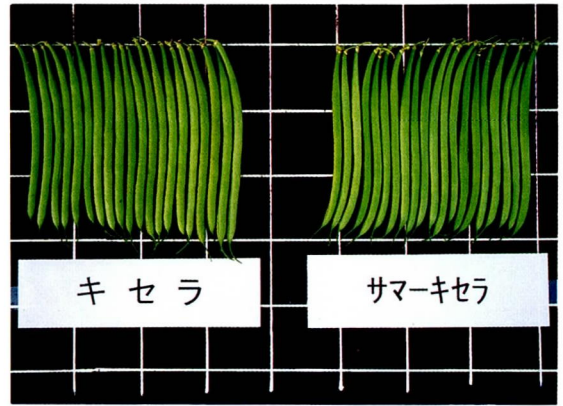


写真2 キセラ・サマーキセラの品質

早生品種の特徴です。平成10年秋に発表したまりやは播種から収穫開始まで約55日前後に到達し、矮性では早生種に属します。早生でありながら、収穫の立ち上がりがなだらかで、早生としては比較的長く収穫できる特性を持っています。さやは濃緑で曲がり少なく、比較的短くそろい、やや太りが早い品種です。まりやはネリナ、キセラのようなさやの形状として高品質を兼ね備えていませんが、早生として早取りができ、さらに中生のような、なだらかな収穫が可能のため、メインとなる他作物の収穫の合間に、また、小面積の家庭菜園での自給用等として利用することができます。

リンダは典型的な早生品種で、初期生育が旺盛で収穫開始から急激にピークを迎え、短期取りでの収穫に適しています。

当社では、現在丸莢系のつる性品種の開発に取り組んでおり、一部産地での試作を開始しております。SB2014は半つる性で、キセラよりややひとまわり大きな丸莢で、くびれの出ない肌のきれいな系統です。矮性産地では収穫作業で長時間かかんだ作業が腰への負担となり、より作業性を楽にできるつる性品種が求められており、これらの要望に沿う新しいタイプのいんげんとして開発中です。

## 4 品種特性を生かす栽培のポイント

### 1) キセラを作るなら、まず草勢の確保が大切

キセラの種子は極めて小粒です。したがって初期生育も比較的緩慢に見えますし、その後の生育も大葉の品種と比べるとやや見劣りします。品種



写真3 キセラのハウス栽培

特性として全体にコンパクトな草姿になりますが、できるだけ草勢を強めに作ることが曲がりさや、くずさやを減らし、着莢を多くし、増収につながります。できるだけ地力のある圃場を選び、施肥量もやや多めでの栽培が必要です。特に長期栽培（長期収穫）をおこなうには、追肥が必ず必要となり、吸肥力の上昇する着蕾期～開花初期頃から定期的に追肥をおこないます。サマーキセラについてもキセラ同様初期生育が緩慢なため、草勢確保が極めて重要となります。

## 2) 1株2本立ては秀品率を下げる原因

直播の場合は最低でも2粒播きが必要となりますが、発芽が極めて良好でほとんどの株が2本立てとなった場合、1株が混み過ぎ秀品率の低下が懸念されます。初期生育の間に1株1本に間引いて仕立て、1株が十分大きくなるような栽培をこころがける必要があります。2本立てのほうが総収量が上がるのは確かですが、秀品率の低下によって収益性の低いB品割合が高くなって、結果的に効率的な作業の阻害要因となってしまいます。

## 3) 矮性品種でも支柱立ては絶対必要

比較的倒伏に強いネリナであっても、支柱立ては必要です。本来矮性（つるなし）品種ですから、支柱を立てなくても収穫開始まで大風が吹かない限り、倒れる心配は少ないですが、収穫期以降はさやを探しているうちに株元がゆるみ、今度は多少の風や雨で倒れてしまいます。倒伏はさやの品質を劣化させる大きな原因の一つとなり、さらに収穫の作業性を悪くする要因となります。支柱立てをおこなう場合、収穫開始間際になってからで



写真4 サマーキセラの荷姿

は株が広がり過ぎ、ひも張りなどの作業がやりにくくなるので、できるだけ初期生育期間中におこないます。

## 4) 品種にはそれぞれ取り頃がある

例えば、まりやは莢長13cm程度がほぼさやの伸びがそろそろ長さで、一方キセラは16～17cm程度までは勢い良く伸びていきます。キセラの規格が他品種と違うように、それぞれの品種にとって品質と収量のバランスを考えた収穫適期（取り頃）を設定する必要があります。さやの品質（曲がり、硬さ、色等）には莢長よりも太りの方が影響しているケースが多く、したがって比較的早くから太ってくるまりや等は、できるだけ短め（莢長12～13cm程度）で収穫し、ネリナ（同13～14cm）、およびキセラ（同14～15cm）については、早く収穫すると細すぎて日持ちの問題も心配されるので、それぞれやや長めに収穫する必要があります。ただし、収穫遅れは品質の劣化とともに草勢を弱らせる最大の要因となるので、特に長期収穫を目指す場合には、極力草勢を弱らせないよう取り遅れに細心の注意を払う必要があります。

## 5 むすび

以上、ご紹介致しました品種の種子のご用命につきましては、最寄りの営業所までお問い合わせ下さい。

なお、本文中の試作系統につきましては、種子量がまだ少なく、大変ご迷惑をおかけ致しますが、より詳細については営業所あるいは農場まで、合わせてお問い合わせいただければ幸いです。